

十、所由兵動は輜重隊長の区処により、樺州部隊に位置
置すべし。輜重隊編成の肉攻班と師団司令部前方
に配置すべし。

十一、各通陸軍病院長は八面通及平陽陸軍病院を係と指
揮し、樺州兵舎に臨時野戦病院開設すべし。
其各隊は工事の完結並に部隊の行動等對空警戒に
特に注意すべし。

十二、予は樺州旧大隊兵舎にあり

第三十六師団長 野崎武彦

下達也

逐次到着すべし。部隊毎に其隊長を相対し口達す

送 呈

1796 十月十日夜其他は十日夜より配備に就き工事には着手
 す各隊は屋間敵飛り標の遠敷し昼夜連続工事
 巨塞施十三日又は概ね五時敵兵隊に若干の交通設備
 巨完成せり

③ 四道峯附近の戦斗

敵は十三日其先頭 麻呂石附近に現出 同地の肉攻部隊
 と戦斗中より十三日ノ敵 四道峯 東側ニ軒陣進に進
 出り

十四日十時頃より敵砲兵本道 西側に隊陣す其敵五、
 七十門内外より敵は十時射撃を開始す其主火
 力を 先づ我砲兵に指向しぬい 敵は十三時頃 四道峯高地に其中射撃

同時一却を以て特砲兵に目撃射撃を實施し同地
 敵戦車七輛は標高30高地東南山角陸地に突入し
 守兵は死力を盡して陣地の保持に努めしも敵兵隊内
 に透射せし我カ兵に對し狙撃的射撃を實施し
 十五時頃守兵約30名は敵陣の射撃により全兵壯烈
 なる戦死を遂ぐ
 我守兵の全隊を奪ふや敵歩兵前進し我り同地を占領す
 同地占領は敵に良好なる概測所を築きを以て同夜
 屢々夜間攻撃を實施し之を奪回し勉^めた^り敵
 は益々兵力を増強し終に奪回すべしとす
 四道峯高地は中腹以上は敵陣の行動困難を以て

敵は同高地嶺頂附近に於て四時間以上火力を集中し
 我中隊地を徹底的に破壊せり
 十五時頃より敵陣三〇軸は本道並に四道峯北側斜面
 に攻撃し殊に守兵は散らばるに遂に下を通過せしめ終つて
 跟随す敵守兵に對し陣前至近の距離に於て狙撃
 す敵守兵隊を亂し殲盡す
 終つて後方に控置せし敵陣前を通過し我強潰しに於
 ちあつたを狙撃すかくして四道峯陣地は四道峯全
 部隊を降く全却敵軍に歸す時正に日没す
 我か南の敵軍の工兵用攻隊は昼夜も分たず肉薄
 攻撃すも及ばず復し敵軍の輜重を破壊す
 敵軍の破壊せし敵軍の輜重を破壊す

無か砲兵は敵の集結公も意とせり
 夜間敵の破壊
 と考施し
 十の破壊を敵
戦車は野重部隊
 師団は敵軍及出砲の威力の
 死を揮し格闘に乘し
 各隊より選抜せし砲隊を陣前
 に派遣し或は
 肉攻を實施す知すも敵の
 警戒は厳重にして大なる
 成果を収めし得たり
 又279を以て夜間四首谷
 高地奪回のため夜部隊を
 實施せしも終に成功す
 るに至らず
敵は
 夜間敵軍より警戒網を
 配置し全く攻撃を中止
 あり

(四) 愛宕河附近の戦斗

敵は十四日砲兵並に肉攻部隊の考敵隊中に多大の損
害を蒙り、鑑于十五日八時より十六時に至る八時間連続
我が砲兵並に本道に割入地区の肉攻部隊は力を集
中す。之が為我砲兵は片砲平曲門中一門^{も残し}他は完全
に破壊せり。又我^{砲兵}砲台も砲兵の存行動不能とす。
かくして十四時我對^{砲兵}砲台を全く沈黙す。や敵は
中地区正而に休約を拘現^敵隊逐北に字兵を粗撃し
中隊^{砲兵}砲台は砲兵を蹂躪する等中地区隊の損害
多かり。又^{砲兵}砲台は^{砲兵}砲台の攻撃を受け高橋^{砲台}の基
の位置を棄擲し、^{砲台}砲台を十時^{砲台}砲台より師團司令部より

電話連絡全く不通となり

この跡印に於て²⁴⁶は敵機^{敵機}の破壊四機^{破壊四機}擧げ^{擧げ}られ

かくて敵機^{敵機}十五機は師団跡印司令部直前に現出す

我輜重隊の肉攻班長以下五名は十五機^{敵機}煤塵も抱え

名人先頭は前進せし五輜の戦車を攻撃す^{攻撃す}突入

と同時見事煤塵^{煤塵}を同時五名の戦車を^{戦車}に

破壊せり^{破壊せり}この状況を目撃せし後^後敵機^{敵機}は急遽

四道山方面に退却せし^{退却せし}用時^{用時}跟随せし敵機^{敵機}は亦

退走せり

師団司令部は敵^敵直前^{直前}に前進^{前進}し来る^{来る}の機^機に接し

念に最後の段階に^{段階}敵機^{敵機}を^を射撃^{射撃}せり^{射撃せり}と判断^{判断}せし^{せし}や^や急遽^{急遽}隊長

(五) 轉進部 署名

第五軍命令の要旨上日

一軍は本夜暗牡丹江を渡河し横道河子方向に轉進し後國を築きんとす

二第百三十五師團は本夜二時時陣地を撤し興隆橋を

渡過し牡丹江市西南側地区に向ひ轉進すべし

樺河部落南側本道は第百三十五師團に於て使用すべし

第百三十五師團は樺河北側道路を終て樺河西側橋梁

を渡過し牡丹江西北地区に轉進す

幹却候^生神橋^生樺河は軍收着隊とあり兩師團牡丹江

渡河後樺河西側橋梁を渡過す

二十六日八時日第一方面軍司令部應令に命令受領者^{署名}を^{署名}す

師団は軍令に基き二十五日二十時各隊命令受領
者を待たず左記の如く部署あり

師団の転進部署

1. 2771は臨時現陣地を撤し興隆に至り興隆至に
其南方飛カ場際止を占領し師団の興隆橋渡場
を確保す

2. 病院、丁、由兵勤は下長^{下長}の指揮を以て二十三時
河出^{河出}興隆橋を經て牡丹江貨物廠西側に向ひ

轉進

3. 135D機、1260機、317AS、126A(5A8)は砲兵隊長の指揮を以て五段河
附出^{附出}が被河^{被河}興隆橋道を牡丹江貨物廠南側

に
向
ひ
轉
進

4. 7/24¹⁰ P O P 24¹⁹の順に24時旧下兵全附連を出發推河一雲

隆橋道を牡丹江市南側に轉進、

5. 24¹⁸は24時現陣地を撤し英基屯一興隆橋道を

興隆橋北側地区に轉進

*

師團の轉進は比較的順調に實施せしむ十六日八時頃

迄に24¹⁸を降し其他は全部興隆橋を通過す

(六) 24¹⁸の状況

師團轉進命令は命令受領せし將校自ら傳達あり隨

行せし下士官及兵長とも 聯隊本部に傳へしあり
 當時聯隊本部は昼間の位置より約一軒離隔せし
 高塚内に入り傳令ニ表拂曉前迄捜索せしむ
 発見し傳不或は他より命令を聞て既に轉進せし
 の事之と判断し傳達せしと牡丹江左岸に落進せし
 聯隊長は十六日未明五長上田少佐本部に來り師團主
 力の轉進せし由を傳ふ、聯隊長曰く『吾はここを死所
 と覺是情あり確實なる轉進命令と以て領せしむ
 一歩も後退せしむ』
 十六日十時頃より優勢なる敵米戦砲隊月二挺を
 完全包圍す 聯隊は頑強に抵抗すれども死傷續出

附 頁

| | | | | | |
|------|------|------|-----|-------------|---|
| 2770 | 2790 | 2780 | 特戸年 | (七) 被弾損害の概数 | <p>其時より、聯隊將兵は逐次軍旗の下に集令す。聯隊長<small>ハ</small>金重現に於て最後を遂<small>ハ</small>とし先づ東方を選擇、諸子軍旗を焼却し、爾後は事令せし兵員を令し南方に向ひ最後の突撃を實施し、聯隊長及班長は敵前にて割腹自決せり。</p> |
| 100 | 600 | 800 | 火砲 | | |
| 18 | 4 | 21 | 別砲 | | |
| 破壊 | | | TK | 4 | |
| 破壊 | | | 火砲 | 21 | |

